

## 令和4年度幼稚園学校評価（出雲市立高浜幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価（点数式）	評価（記述式）	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	教育目標達成のために高浜地区にある自然や行事を教材化し、それらを保育や遊びの中に取り入れることでコミュニケーション能力の育成や自分で考え自分で工夫する力の育成を図った。また保護者の方の協力を得ながら学級経営を充実させ一人一人を大切にする保育に努めた。	4	○保護者アンケートから園児が幼稚園を楽しみに通っていることがわかる。園の努力のあとがうかがえる。園児のいいところなどをよく理解し園児を大切に教育が行われている。 ○職員は常に笑顔で子どもや親に接しており対応が親切だ。	○保護者や地域のニーズをとらえ、本園の良さを生かした園経営を行う。特に小学校との連携をこれまで以上に強化し滑らかな小学校生活への移行をめざす。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	子どもの興味関心を探りながら一人一人の発達の課題に合った保育計画を作成し日々の成長につなげた。また子どもの様子から、体調等の変化に即座に対応できるよう健康観察を細かくとるとともに、子どもに関する情報を職員で共有しきめ細かな保育に努めた。	4	○人数が少なくなってきたが次年度からの長時間預かりの実施に期待している。少人数の良さを逆に生かしてきめ細かな保育により明るく活力ある園児の育成に努めてほしい。	○感染症対策のために実施できなかった教育活動等については再度見直しと点検を行い、教育目標達成のために必要な活動は何か、について検討しながら教育課程の再編成を行う。また小規模園、混合学級のメリット、デメリットをふまえた指導計画を作成し展開していく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	個別の支援が必要な子どもの実態から課題を捉え、その子にあった支援を職員間の連携により組織的に計画的に進めた。また市の巡回訪問や保育幼稚園課、専門機関との連携を図り、より有意義な支援の仕方を学び実践に生かしてきた。	3	○地域を歩いている園児がいつも周囲の大人に元気に挨拶をしている姿に好感が持てる。	○園児の様子や保育に関する情報を職員間で共有し、丁寧かつ多面的な視野で幼児一人一人の個性や発達を捉える。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	職員の人権意識・人権感覚を研ぎ澄まし、一人一人を大切にするとともに、学級作り、保育に努めた。日々の保育では活動の最後に振り返りの場を設け、友達の良い点や一緒に活動して良かった点などをお互いが確認できるようにし、協力したり、思いやりの気持ちを持って生活する気持ちを育んだ。	4	○動植物の観察をしながら歩いている姿を見かける。園では自然と触れる機会をたくさん計画され知的好奇心を育むよう工夫されている。	○特別な支援を要する園児について保育幼稚園課や専門機関と緊密に連携を図り、より専門的な知識や技術をもって個に応じた支援に努める。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	久佐加神社まで歩くという目標を4月に決め、目標に向かって頑張る気持ちを育てた。また感染症対策の中、遠足、運動会、生活発表会や毎月の誕生会、座禅、体操教室、読み聞かせ、茶道教室などの行事を計画的に実施し、活動に対する意欲や根気強さ、協調性や伝え合う力の育成を図った。	4	○園児は行事をととても楽しみにしている。行事の後も思い出しながら家族に話すことが多い。生活発表会では限られた時間の中、自らやりたいことを考え計画し目標達成のために工夫して活動していた。	○職員自らが高い人権意識をもち、日頃の園生活の中で幼児のモデルになるよう行動する。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	交流の日の3年生との交流や2年児童の園訪問、小学校校庭での園外保育などこれまでできなかった交流を再開した。また管理職による保幼小連携会議や担当者間の連絡会議の実施、小学校教員の保育実習、園職員の授業参観などにより幼小連携の充実を図った。	3	○久佐加神社までの長距離を歩くことを目標に年間保育計画を立て、体力作りや園外保育を実施された点、生活発表会でそれを披露された点が良い。	○ICTを活用した保育について研究を進め、先進的な取り組みについて情報収集を行いながら職員のスキルアップを図る。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	学級通信や連絡ノート等を用いて信頼関係を築きながら、教師と保護者の方が同じ方向に向かって子どもの育ちを支えることができた。未就学児教室への参加も昨年より増え、感染防止のための中止も9月の1回のみで、毎月楽しみに参加される家族が多かった。地域の方との交流についてはコロナ禍のため今年度も十分な実施はできなかったが、園外保育でお世話になったり、やさしく声をかけてくださるなど常に協力的で温かく支えていただいた。	3	○家庭との情報伝達にITを活用してはどうか。 ○協議会の様子をリアルタイムで配信するとよい。 ○園や学級便り、公開保育等で園の様子が家庭や関係者にはよく伝わっているが、ホームページ等でさらに地域へもPRするとよい。	○ホームページや園便り、地域の広報、ICT等を活用して保護者の方だけでなく地域の方へも園の様子をお知らせする。 ○未就園児保護者の方へ定期的に便りを発行してより丁寧な情報提供を行う。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	市内の幼稚園研究会でブロック内の保育公開を行い、地域教材を生かした遊びの場や環境づくりについて実践発表を行った。毎月の職員会で指導計画について細かく打ち合わせを行い日々の保育の充実を図った。	3	○東ブロックでの公開保育研究をされた。今後も幼児教育について研修を深めていただきたい。	○地域の幼稚園としての役割と責任を自覚し、研究を通して質の高い保育・教育を目指す。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	朝礼や職員会で決まったことや保育に関する情報共有を細かく丁寧に行い、園の教育目標達成と園長の運営方針のもと互いの思いを尊重しながら協働して計画的に園務を遂行することができた。	4	○教職員の連携が良くとれており園児は安心して活動していると思う。	○子ども理解のための情報交換、情報共有を細かに行き組織的かつ協働する職員集団を目指す。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	危機管理マニュアルの確認を定期に実施するとともに、感染症対策に努め、子どもや保護者が安心して活動できる環境づくりに努めた。火災や地震時の避難訓練に加え、7月には洪水想定避難訓練により避難ルートの確認を行い、2月には親子防犯教室、不審者対応訓練を実施した。	3	○火災や地震に加え、水害時の訓練や防犯教室を計画的に実施された点が良い。 ○散歩や外出などの行事の際、AEDを持参し万が一に備えたとよい。	○危機管理マニュアルの定期的な見直しを行う。遠足等で外出する時は事前にAEDの設置場所を確認する。持ち出しが必要な場合は園のもの又は消防署から借用したものを持参する。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・設備の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	毎月、施設内外の安全点検を行い、修繕が必要な箇所については保育幼稚園課や教育委員会施設課に相談して対応した。今年度はブランコやジャングルジムの修理、外水道の修理、園庭の樹木剪定や砂搬入、飼育小屋周辺の瓦礫撤去等を行った。	3	○遊具が新しくなって園児が喜んでいました。	○園舎、園地、遊具等の点検を定期的に行い安全に過ごせる環境づくりに努めるとともに処置が必要な箇所が見つかった場合はすぐに対応する。

※自己評価の評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する